

お小遣い何に使ったか、親は把握すべき？自由にさせていい？【1／2編】

大まかな使いみちを決めたら、あとは子供の自由に

——「お小遣いを渡した後、子供が何に使っているのか把握したほうがよいでしょうか。余分な物を買っていないか不安になる保護者も多いと思います。」

・金額と大まかな使い道をお子さんと決めたら、あとはお子さんの自由にさせてあげてください。というのも、失敗も含めて身銭をきって学ぶことは多いと思うんです。

例えば、文具を買うためにとっておいたお小遣いなのに、ガチャガチャ代で全部使ってしまったという失敗もするでしょう。変なおもちゃを買って、すぐに壊れてしまうこともあるかもしれません。しかし、その失敗からお金や物の大事さを身を持って学ぶと思います。大人になってからゲームで大金を課金したり衝動的にお金を借りて後悔したりするよりも、少ない金額でお金の失敗を学べる良い機会なのではないでしょうか。

よく失くす物はお小遣いで買わせる

——「お金について親子で話すいいきっかけになりそうです。」

・セミナーでお会いした親御さんの中に、お子さんが鉛筆や消しゴムなどの文具をすぐに無くしてしまうという方がいらっしゃいました。それまでは学校で使うものはお母さまが買っていて、失くしやすいからと予備まで揃えていらっしゃったそうですが、子供があまりにも物を無くすので文具はお小遣いで買うようにさせたそうです。

すると、鉛筆や消しゴムを失くすとお小遣いが減ってしまうことにお子さんが気づいて、まずは消しゴムなどの持ち物に名前を書くようになったそうです。さらに失くして見つからなかった場合、学校の落とし物入れをチェックして先生に確認をするようになったと聞きました。失敗から子供が学び、お小遣いの使い道を変えることで行動まで変わるわかりやすい例だと思います。

「お小遣いが足りない」と言われたら

——行動まで変わるのがすごいですね。

・お小遣いはあげること以上に、使い方について親子で話し合うことが大事です。子供から『お小遣いの金額が少ない』『今月は余分にお小遣いがほしい』と言われたら、なぜ足りないのか・何に使いたいのか？をきちんと子供から聞いて、その理由が納得できるものであれば余分にお小遣いをあげても良いと思います。

我が家の例ですと、縄跳びの縄がどうしても欲しいと子供に言われたことがあります。子供はすでに縄を数本持っていたのでダメだと言ったのですが、『どうしてもクラスで流行っている縄が欲しい！あの縄を買ったら縄とびを頑張る』と言ったので、追加のお小遣いで縄を買わせて様子を見ることにしました。結果、子供は練習をとてもしようになり、縄跳びがかなり上達しました。縄跳びが上達したことで、子供の人生に直接役立つことはありませんでしたが、親子で約束をすることや子供のがんばりを見られたいい機会だったと思います。